

## 第47回県労協定時総会

（福祉はひとつ）

6月20日（木）新潟東映ホテルにおいて、県労協第47回定時総会が開催され、会員団体・役職員の86名が参加しました。

理事長挨拶の要旨。

『「令和6年能登半島地震」発生から半年、元旦早々「まさか」という思いもありましたが、時・場所を選ばず起こりうる自然の脅威と、そして、13年前に発生した東日本大震災、それ以降も日本列島襲っている自然災害に対する、防災・減災の取り組みを忘れてはならないことを、強く感じさせられる一年の始まりとなりました。

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に引き下げられ、社会経済活動が正常化に向かい、また、バブル崩壊後、20年以上も続いたデフレの経験によって定着した、物価や賃金が上がりにくいことを前提とした考え方や慣行から、ようやく脱出傾向となっています。

しかし、取り巻く環境は、ロシアによるウクライナ軍事侵攻が長期化するとともに、昨年10月にイスラエルとパレスチナ・ガザ地区での紛争が発生し、世界的に政治的・軍事的緊張が高まっています。

また、国内に目を向ければ、春闘でこれまでにない賃上げを勝ち取ってはいるものの、原材料価格の上昇などによる物価高騰・社会保障費の値上げと、そして円安により市民生活は困窮しています。

第213回通常国会は、6月23日会期末を迎えます。150日間「政治とカネ」の問題をはじめ、子ども子育て支援もその詳細を見れば、なかなか腑に落ちない点もあり、目先に騙されてはいけない法案が多々通ってしまいました。キックバックという裏カネを懐に入れ、それにかかる税金はいったどこへ。悪いこととしてもその仕事を続けられる国会議員は何なのか？憤りを感じています！

新潟県労協は、12会員団体、県内10カ所の地区労協とともに、「貧困や社会的排除がなく、人と人とのつながりが大切にされ、平和で、安心して働き暮らせる持続可能な社会」をめざしています。主要であるライフサポートセンター事業を柱に、行政をはじめ、さまざまな団体とのネットワークを強化しつつ生活上の悩みや課題を抱えた人たちに對する支援事業を一体となつてすすめています。

労協2030年ビジョンは、「経済成長は人間の幸せのためにあり、

手段であつて目的ではない」ことを改めて認識し、経済・社会・環境の調和やそのための諸課題の解決に向けて統合的なアプローチをめざすSDGsの達成に向けて、私たちも役割の一端を担い行動しています。

本日の総会を契機に、引き続き、政策や制度の改善を求める社会運動と、労働者自主福祉運動を車の両輪として、「福祉はひとつ」の理念の下、「すべての働く人の幸せと豊かさ」をめざして、連帯・共同でつくる安心・共生の福祉社会の実現をはかっています。

今総会は役員改選期ではございませんが、退任される齋藤副理事長に、この場を借り感謝を申し上げます。「長きにわたり新潟県労協運動をけん引していただき、ありがとうございました。今後とも、新たな立場でご指導をお願いいたします。本場ありがとうございます。」

総会では、2023年度の事業報告、2024年度事業計画、2024年度収支予算報告を行い、事業報告の補足意見として、高見代議員（NPO法人フードバンクにいがた）から、「中間支援組織としてのNPO法人フードバンクにいがたとして

の役割を終え解散手続きを行っている。しかしながら利用者の経済的

困窮な状態が続いている。新潟県フードバンク連絡協議会に引き続き、支援をお願いしたい。」との協力要請がありました。

事業計画への補強意見として川原代議員（労働者協同組合ワークスコープ・センター事業団北陸信越事業本部）から2023年度の地区労協活動において、「中村哲」の映画上映会の開催および労働者協同組合の学習会を開催していただいた事への謝意があり、新しく立ち上げた新潟県で2例目となる労働者協同組合の事業「ごまのたね」の説明と今後の支援の要請がありました。

審議議案としての第1号議案「2023年度の決算報告ならびに監査報告に関する件」、第2号議案「定款の変更に関する件」、第3号議案「役員交代に関する件」については、全て満場一致で承認されました。

### 【退任役員】（敬称略）

副理事長 齋藤 敏明 労働金庫

### 【新任役員】

理事 桑原 典子 連合新潟

## 特別講演会

### 「身寄りなし問題の現状と課題」

今回の講演は身寄りなし問題研究会代表の須貝秀昭氏にお願いしました。

看護師・社会福祉士・保護司などの資格を持ち、地域包括支援センターで高齢者対応を中心に仕事をされてきた須貝さんいわく、身寄りなしとは「家族・親族がおらず、または、いても疎遠である、遠方にいる、関係性の問題等のために家族・親族からの支援が受けられない方」だとのこと。そういう人は、施設の入所ができない。アパートの契約ができない。手術ができない。などの問題を抱えており、救急車で運ばれても受け入れを断られることもあるそうです。家族による支援から連帯保証人や身元引受人への移行が必要だとのこと。

身寄りなし問題の三大課題は「金銭管理」「医療決定」「死後対応」であり、その解決のためには、行政を巻き込んだ支援のあり方の検討が必要。今後おひとりさまを許せる地域共生社会の実現に向けて活動を進めて行くとの決意が述べられました。

全国を歩いて縦断して身寄りなし問題を訴えたり、相談やお手伝いをするおじさまレンタルを行ったり、アパート契約ができない人の一時入

居場所を用意したり、戦隊もののヒーローのコスチュームを作って着たり、とにかく様々なことにチャレンジするアクティブな姿に、圧倒されるとともに、身寄りなし問題への対策の必要性を実感したためになる講演会でした。

なお、須貝氏の講演内容は、新潟県労協TVで、YouTubeにアップしましたので、ぜひご視聴願います。



身寄りなし問題研究会代表須貝氏講演



齋藤副理事長 退任挨拶



牧野理事長 挨拶